

藍の都

地域の方々と共に育む、
当院がお届けする健康だより

いるか通信

Vol.5

Take Free

A I N O M I Y A K O D O L P H I N N E W S L E T T E R

INDEX

- P.1・2 • 頸動脈ステント累計140症例を達成しました
- 大阪市北部地域でも「藍の都ボトックス外来」はじめました
- 脳神経外科医としての認知症診療
- P.3 • 心臓の血管の病気④
～『息切れ』について考える(その1)～
- P.4 • 糖尿病の気があるとは？
- 第二回大阪東部Brain, Vascular & Heart Conference開催しました!
- P.5 **看護部** • 母親が輝ける職場 • 妊娠・出産を通して
- P.6 **リハビリテーション部** • 研修で学んで取り入れていること
- 外来看護部** • 外来でインカムを導入しました
- P.7 • 大阪北部地区 じゅうそう奮闘記
- P.8 • 大阪東部地区 城東ながた奮闘記
- P.9 理事長のごあいさつ



頸動脈ステント 累計140症例を達成しました



理事長・院長 佐々木 庸

積極的に実施してきた頸動脈狭窄症最新治療である頸動脈ステント術、当院副部長 矢野達也先生と二人三脚に実施して本年140例にも到達しました。

安全性を重視するため、難易度の高い患者様に対しては、関西ろうさい病院部長 豊田真吾先生、香川大学准教授 川西正彦先生、当院院長顧問(手術部門)永島宗紀先生にご指導いただく

こともあります。また通常の手術においても循環器科 山平浩世部長とのコラボで穿刺する大腿動脈に解離やその他下肢動脈に狭窄などのトラブルとなるリスクを術前にチェック頂くなど、安全性の向上には最大の工夫、努力を継続しています。また若手の二刀流医師である関西医科大学 岩田亮一先生、元大阪大学 黒田淳子先生にも積極的に参加頂き複数の血管内手術専門医の協力で実施しています。



大阪市北部地域でも 「藍の都ボトックス外来」 はじめました

脳の運動神経には、筋肉に「力を入れる命令を出す神経」と「力を抜く命令を出す神経」があります。痙縮とは、「力を抜く命令を出す神経」の働きが悪くなることで、筋肉がこわばり、関節が動きにくくなってしまふ症状です。

運動麻痺を起こした脳卒中者のほとんどの方に発生すると言われています。痙縮は、一次性か二次性かで原因が異なるため、その治療手段が異なります。当院では、ボトックス治療を中心に、反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)、反復経頭蓋直流電気刺激療法(tDCS)、機能的電気刺激治療(FES)、バクロフェン髄注療法(ITB)など、症状に合わせた痙縮治療ができる世界的にも数少ない施設です。そのため、海外からの問い合わせも多く、訪日医療にも対応しています。

また、藍の都院長顧問として、現在も手術指導や外来診察などで貢献頂いている永島宗紀先生が、昨年12月より、大阪市淀川



国際痙縮治療センター 副センター長
リハビリテーション部 科長
君浦 隆ノ介

区で「ながしま脳神経リハビリクリニック」を新規開設されましたが、こちらでも今年の2月より藍の都国際痙縮治療センターとコラボし、ボトックス治療や脳卒中特化型リハをスタートさせています。当院から、院長の佐々木を含むボトックスチームも参加し、ボトックス外来をさせていただいています。藍の都脳神経外科病院では、年間500回以上のボトックスを実施させていただいていますが、「ながしま脳神経外科リハビリクリニック」でも月に2~4回のペースで痙縮治療が行える体制となっています。我々の取り組みが、大阪市北部地域の痙縮でお困りの方々の一助となれば幸いです。



図の様な痙縮でお困りの方は、お気軽に当院「ボトックス外来」へご相談ください。

ご相談E-Mail窓口
reha@ainomiyako.net

引用: GSK「手足のつっぱり(痙縮)」情報ガイド

頸動脈ステントのアニメ図



8Fのカテーテルを
総頸動脈起始部に上げる。



プロテクションデバイスを
上げる。



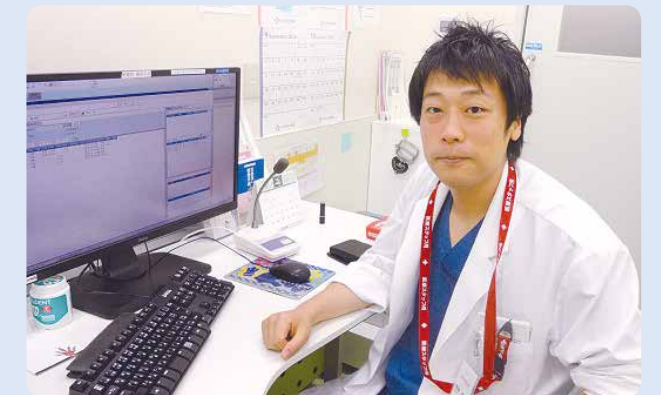
プロテクションデバイスを回収する。
(プロテクション リトリバル)

提供: 日本ストライカー

脳神経外科医としての 認知症診療

認知症は内科が診療することが多い病気ですが、もし脳神経外科医が認知症を診ることができるならば、手術などの治療を決める時に認知症を含めて方針を考えて重要なアドバイスができるかと私は考えています。さらに、認知症を持つ患者様では脳梗塞などをお持ちの方も多く、これらをあわせて診療することができるのも大きな強みであると思います。

私は脳神経外科医として認知症を診療し、正確な診断、明快な説明、適切な治療の三つを提供できるよう努めてきました。近日では、非常に多くの患者様が受診されるようになり、地域からも求められた仕事をしていると実感しています。しかしその一方で、予約の患者様にも待ち時間が生じたり予約が取れなくなったりして、ご迷惑をおかけする事態になってしまいました。よって2018年7月からは、予約システムを変更するとともに診療時間も延長し、よりスムーズに受診していただけるように改善しました。



脳神経外科 宮崎 晃一

日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医
ボトックス治療資格(顔面けいれん・痙縮)
ITB療法治療資格
専門: 脳血管障害
特発性正常圧水頭症(INPH)を含む
認知症全般

また最近では、私は淀川区十三のながしま脳神経外科リハビリクリニックでも認知症外来を始めました。同クリニックでは認知症を含めた脳神経外科疾患全般を外来で診療し、手術が必要な場合には設備の整った藍の都脳神経外科病院に紹介して手術を行っていく予定です。今後、脳神経外科医による認知症診療として地域の支えとなれば幸いです。

心臓の血管の病気 ④

～『息切れ』について考える(その1)～

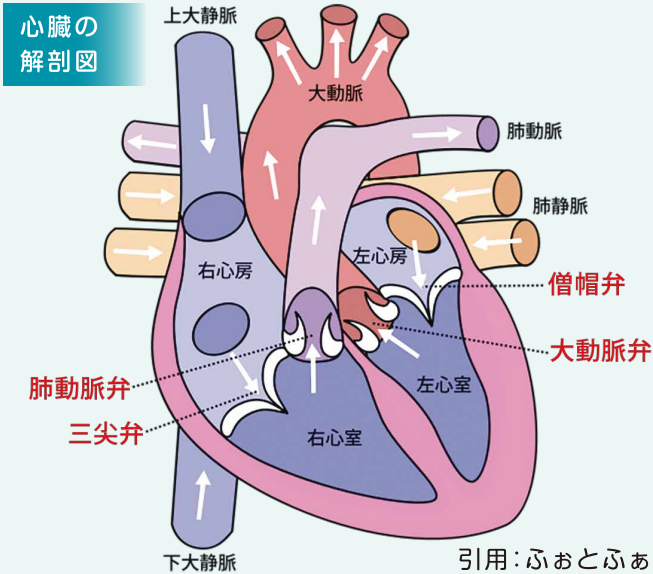
今回は、皆さんが感じる症状の一つ、「息切れ」についてお話しします。「息切れ」を患者様はよく、「はあはあ」「ひいひい」「ふうふう」と言ってこられたり、「息ができない」と訴えてこられることもあります。その原因は、「心臓の病気」「肺の病気」「腎臓の病気」「血液の病気」に大きく分かれます。最近、心臓に関しては『弁膜症』に関してコマーシャルなどで取り上げられていますね(戦国武将のお二人)。



循環器内科 部長
山平 浩世



まず今回は「心臓の病気」でどうして息切れがするのかお話しします。心臓は全身に血液を送るポンプの役割をしています。そのポンプが働かなくなると十分な新鮮な血液を全身に送れなくなります。その状態が『心不全』というもので、息切れなどの症状を起こします。原因は『弁膜症』と『非弁膜症』に分かれます。



引用:ふおとふあ

心臓には4つのお部屋があり、それぞれ逆流しないように入口と出口にあたる部分に弁がついていて、それが固くて開きにくくなったり、逆に閉じきれなかったりする状態が『弁膜症』です。こういう状態になると、それぞれのお部屋に負荷がかかるので、心不全になります。

『非弁膜症』のものは、狭心症や心筋梗塞(心臓を栄養する血管の問題)、不整脈(主に心房細動)、心臓の筋肉が動きにくくなる拡張型心筋症などでも心不全が起こり、息切れが出現します。

これらの疾患は、心臓の収縮する力がないために起こるものですが、皆さんがよく耳にする高血圧症でも、きちんと血圧コントロールをしないと、心筋が分厚くなり、収縮は良くても、拡がり(拡張)が悪いために心臓に負担がかかるため、息切れが生じます。

高血圧はしばらくは無症状の方もいますが、放置すると動いたりするときに息切れを感じるようになりますので、要注意です。次回は心臓以外の病気て起こる息切れについてお話しします。

安静時だけでなく、ちょっとした動作で息切れが出る方は、ぜひ当院循環器内科に一度ご相談ください。



糖尿病の気があるとは?

みなさんこんにちは。内科医の吉居真由美と申します。今日は糖尿病のお話をしたいと思います。

糖尿病かどうか検査するには採血をしてもらいますよね?健康診断では朝ご飯を食べない“空腹時”の状態での採血するように指定されると思います。これは、糖尿病の診断に「空腹時血糖126以上」という基準があるからです。ところが、糖尿病になる手前、いわゆる“糖尿病の気がある”状態かどうかはこの検査ではわからないことが多いのです。

実は糖尿病の手前の人はまず食後血糖がグーッと上がることがわかっています。ピークは食後1時間半から2時間。そしてその後急に血糖値が下降し、5時間くらいすると異常に血糖値が下がる「反応性低血糖」の状態になって、おなかのすいてふらふらする症状を感じる人もいます。

空腹時血糖が正常でも食後血糖が高ければ、糖尿病になっていなくても動脈硬化が進みますよ。自分もそうかなと思われた方は総合内科に相談しに来てください。

それでは外来でお会いしましょう。

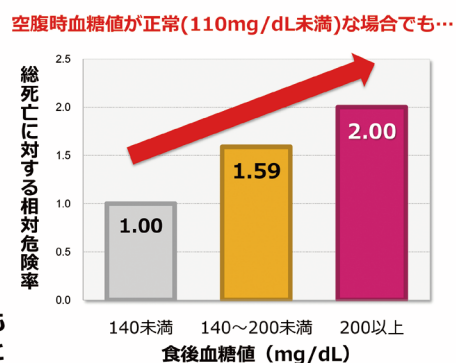


総合内科
吉居 真由美

空腹時血糖値だけではなく 食後の血糖値もしっかり管理しましょう



空腹時血糖値が正常でも 食後血糖値が高くなると 死亡の危険率は高くなります。



DECODE study group. Lancet. 1999; 354: 617-21より作図
Copyright © 2014 CareNet, Inc. All rights reserved.

引用: CareNet <http://www.carenet.com/slide/37>

第2回 大阪東部 Brain, Vascular & Heart Conference

開催しました!!

6月23日に開催しました『第2回大阪東部BVHC』病診連携の会は、あいにくの梅雨空にもかかわらず、近隣だけでなく遠方からも大勢の先生方にお越し頂き、最新の脳卒中治療やカテーテル治療、睡眠時無呼吸治療、認知症への取り組みをテーマに、情報共有する機会を持つことが出来ました。

特に認知症におきましては、多くの先生方が困難で複雑な状況に直面されており、診療の課題となっております。当院の認知症専門外来を知って頂き、タッグを組むことで、治療の手助けになればと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



薬剤部 科長
矢野 千寿子



母親が輝ける職場

私はこの藍の都に就職して、2度の産休育休を経て、3人の母親になりました。

最初の産休時はまだ開院3周年ということもあり、産休取得は私が第1号でした。二度も産休育休から復帰し、働き続けることができてるのはこの藍の都だからこそと思う毎日です。

子育てをしながら看護師として働く毎日は、慌ただしく瞬間に過ぎていきます。しかし、とても充実しており自分らしく生き生きとした毎日を送ることができていると痛感しています。

自分の好きな仕事を続けることができていることが1番の理由ですが、何よりも母親としての私を尊重してくれ、お母さん達が働きやすいように！と職場作りをしてくれている院長先生、師長はじめとするみなさんのおかげです。

そのような職場で働いているからこそ、家族をととても大切に思いますし、だからこそ、患

SCU・急性期病棟 看護師
國枝 朝子



者様やその家族のかたへもっと寄り添った看護ができれば、、、と日々の業務の中で感じるものがたくさんあります。

脳梗塞や脳出血などだけでなく、高血圧、糖尿病、心房細動などの基礎疾患のある患者様。大小様々ですが日常生活に支障をきたす何かしらに悩んでおられる患者様の手助けになりたいと思い、患者様のQOL(日常生活の質)の向上ができればと思いながら仕事をする毎日です。

急性期治療の期間は患者様はもちろん、その家族様も、とまどいや不安がたくさんあると思います。その治療期間、少しでも力になればと強く思います。

この藍の都には、そんなママさんナースがたくさんおり、日々、患者様ファーストの看護を目指しています。

妊娠・出産を通して

私は入職してから急性期病棟で勤務しています。昨年、第一子を出産しました。妊娠中は悪阻がひどく、1か月程休職しましたが、その後は体調も良く、私の希望で出産予定日の二週間前まで働かせていただきました。

体位変換やベットの輸送など、師長はじめスタッフがサポートしてくれ、リーダー業務を増やして座れる時間を確保するなど配慮していただき、日々の業務を負担なく働くことができました。そのおかげで、予定日に無事に出産することができました。育児休暇は当初一年の予定でしたが、希望の保育園が空いておらず、育児休暇を三か月間延長させて頂き、今年の四月から急性期病棟

SCU・急性期病棟
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
横尾 幸代



に復帰しました。妊娠・出産を通して、たくさんの配慮をしていただき、今仕事ができていることに心から感謝しています。

仕事が終わってからも母業があり、クタクタの毎日ですが、患者さんが元気になっていける姿をみると、私にも少しは回復のお手伝いができたのかなと嬉しくなり、モチベーションに繋がっています。これからも家庭と仕事の両立を無理なく続けていけるよう、皆のサポートを受けながら頑張っていきたいと思っています。

研修で学んで 取り入れていること

私は先日、早期離床・高次脳機能・長下肢装具を使用したリハビリ訓練の最新医療を行っている宮城県仙台市にある広南病院へ施設見学に赴く機会がありました。

広南病院での急性期の取り組みとして、他職種との積極的なチームアプローチを行い、より安全に早期からリハビリを実施していました。くも膜下出血を発症すると1・2週間の安静後、ベッドから離床を行う事が一般的です。しかし、広南病院では他職種との連携により早期から安全に離床を行う事が出来るため、より洗練された取り組みが可能となっていました。

また、超急性期からの長下肢装具の取り組みとして、発症後2週間以内に装具の選定・作成に取り組んでおられました。特に重度片麻痺例の歩行の再建にはとても重要であり、長下肢装具の治療を行う方が予後は良好であると言われています。

今回学ばせて頂いた事は当院でも取り入れさせて

リハビリテーション部 副主任
理学療法士
山田 隼輝



頂き、日々の回診にて他職種と密なディスカッションを行いリスク管理の徹底、早期からの長下肢装具の選定・作成に力を入れて取り組ませて頂いています。

今後も、常に最新のリハビリが提供出来る様に日々バージョンアップしていきますのでどうぞよろしくお願い致します。



外来でインカム^{スマイル}を導入しました

外来では、スタッフ間の連絡不足などによる患者様の待ち時間が発生していた為、受付・看護師・検査技師間の連絡手段として、インカムを導入しました。いわゆるトランシーバーというもので、飲食店や服屋などで見かけることがあると思いますが、病院でも多く導入され始めています。慣れるまでに少し時間はかかりましたが、今ではスタッフ間でのやり取りに重宝しています。例えば、患者様の検査等へのご案内のタイミングや、具合が悪くなった患者様へ早急に対応ができるよう連絡を取り合っています。

今後は、受付・看護師・検査技師の連絡をインカムでさらに密なものにし、待ち時間の発生をより短くしていけるよう努力していきます。患者様の笑顔をより多く見られるよう患者様ファーストを合言葉に、スタッフ一同尽力させて頂きますので、今後とも宜しくお願い致します。

看護部 主任(外来担当)
内田 妙香

執筆者:後列右端



じゅうそう奮闘記



藍の都脳神経外科病院 院長顧問(手術部内)
ながしま脳神経外科リハビリクリニック
院長 永島 宗紀

脳神経外科クリニックを 開院しました。

こんにちは。毎週木曜日午後に来外および手術サポートを担当している永島です。私は、2001年に脳神経外科医となり、富永病院や大阪脳神経外科病院などで勤務してきました。そして、2017年4月からは藍の都脳神経外科病院に就職し、院長補佐(手術部内)として大阪東部地区の診療に従事しつつ、2017年12月に大阪北部地区である淀川区にながしま脳神経外科リハビリクリニックを開院しました。



まだ半年の経験ですが、クリニックを開院して患者さんとより近く接するようになったと感じています。病院に勤務していた時は、忙しくて患者さん一人当たりにはけることができる診察時間もかなり限られていました。でも今は、比較的自由に時間が使えるため、介護など家庭環境改善のお手伝いもできるようになりました。

現在も藍の都院長顧問として脳血管奇形や脳動脈瘤などの難易度の高いニ刀流手術(脳顕微鏡手術および脳血管内手術)で貢献頂いている永島宗紀先生が昨年12月大阪市十三でながしま脳神経外科リハビリクリニックを開院、藍の都国際痙縮治療センターとコラボしボトックス治療や脳卒中特化型リハもスタートしています。



藍の都脳神経外科病院で勤めてとても良かったことは、リハビリが充実していて、退院後スムーズに家庭に戻る援助などを学べたことです。またながしま脳神経外科リハビリクリニックにおいて、佐々木庸理事長に、月に一度ボトックス特別外来でご支援をいただいておりますし、藍の都脳神経外科病院 国際痙縮治療センターのリハビリスタッフの方々にもサポートいただいています。

これからもこの経験や支援を生かして、大阪東部ならびに北部地区の地域の方々のお役に立てるようにより一層頑張っていきたいと思っております。



城東ながた奮闘記

脳卒中リハ特化型 彩りの都
デイサービスセンター城東永田 センター長
藍の都脳神経外科病院
リハビリテーション部 主任
(高度急性期担当)
西岡 将



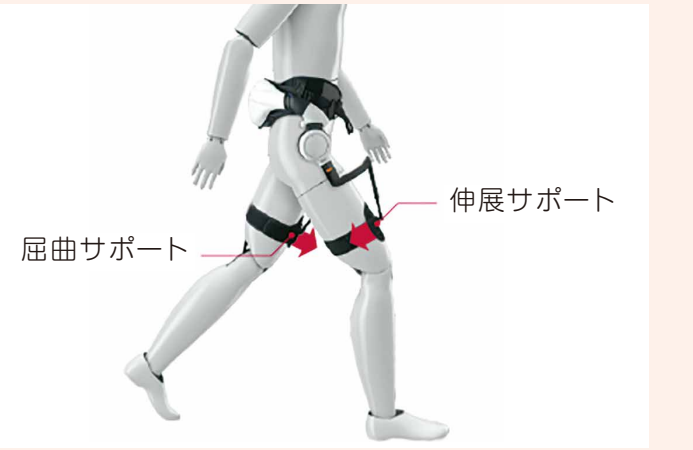
当施設での歩行リハビリ テーションの取組み

当法人では、全国トップレベルの病院や施設へ研修に行き、各施設のレベルアップに努めています。私自身、昨年12月に東北の脳卒中治療全国トップクラスである、宮城県仙台市にある広南病院のリハビリテーション科へ研修に行かせて頂きました。

広南病院では、発症早期から積極的に長下肢装具を使用した歩行訓練を行ってまいりました。歩行は、股関節と足部を含む足関節の動きが重要とされており、歩行訓練で特に大切にされていたのが、「麻痺している側の股関節伸展荷重」、「しっかりと歩幅」、後は「タイミング」と「リズム」の確保でした。一般的に、デイサービスでは入院中の様な集中的リハビリの提供は難しく、見学で学んだ歩行訓練と同様の運動量を確保することは困難です。しかし、脳卒中者の歩行再建には、上記の様なポイントに重きを置き、十分な運動量の確保が重要だとされています。そこで、脳卒中者の歩行リハビリに適した歩行支援ロボットを導入することにしました。



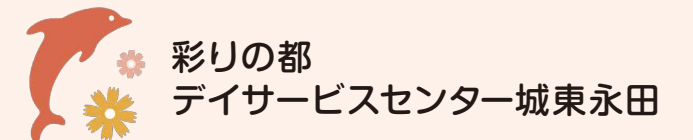
藍の都火入れ開設時からの生え抜きで2階高度急性期病棟のリハビリテーション責任者であった西岡 将主任が本年1月より城東区永田で大阪でも前例のない脳卒中リハ特化型デイサービスセンターを主責務者の立場で開設しています。



HONDA歩行アシストは、京都大学の大畑先生のチームとHONDAが脳卒中者の歩行リハビリのために開発したロボットです。HONDA歩行アシストは、股関節運動の不足分だけをアシストし、正常歩行の股関節運動を運動学習することを目的とした歩行支援ロボットです。

HONDA歩行アシストを使用することで、「麻痺している側の股関節伸展荷重」、「しっかりと歩幅」、「タイミング」、「リズム」など必要な要素を組み込んだ歩行訓練が可能となります。更にこのロボットの良いところは、慣れてくるとデイサービス利用中の自主トレーニングにも使用でき、脳卒中リハビリで重要な運動の質と量の提供が可能となります。

当施設では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を配置し、最先端のリハビリ器機を併用することで、介護保険制度下であっても、ご利用者様のご回復を目指しています。ご見学等、随時対応しておりますので、お気軽にお問合せください。



TEL 06-6962-3400
E-mail irodorinomiya.jyoto@gmail.com

理事長挨拶

北海道研修時代に南海沖地震を函館脳神経外科病院で経験した私にとって、今回の大阪北部地震でハード面の損壊はなく引き続き患者様への治療を継続できること、藍の都チーム一同あらためて喜びを感じています。

2017年開設6年目に日本最短で社会医療法人を修得した功績や大阪東部地区での急性期から回復期、生活期までの切れ目のない脳卒中治療の診療実績(手術累計1500例等)、脊髓脊椎センター(脊髓脊椎手術累計300例;栗林センター長個人執刀実績約3000例)や循環器カテーテル治療実績を高く評価頂き、DPC係数(標準病院群)は全国20位(大阪府1位)を頂きました。また、厚生労働省医政局委託事業である医療施設経営安定化推進事業の医療施設の経営改善に関する調査研究(平成29年度)に全国8施設に選出され、2ページ目目次で2施設目として厚生労働省公式ホームページにアップされていますので是非ご検閲頂き開設からの当院のハートあるチームの鼓動の一端を感じて頂ければ幸いです。



理事長・院長 佐々木 庸

〈主たる資格等〉

- 医学部系資格 日本脳神経外科学会専門医(札幌 中村記念病院 研修)
- 日本脳卒中学会専門医(札幌 中村記念病院 研修)
- 日本脳血管内治療学会専門医(神戸医療センター中央市民病院 研修)
- 西安交通大学医学部客員教授
- 経営学部系資格 経営学修士(神戸大学大学院MBA)



■厚生労働省公式ホームページ内「医療施設の経営改善に関する調査研究(平成29年度)」

<https://goo.gl/7z7Zzc>

患者様ならびに 患者様ご家族の皆様へ

当院では医師やスタッフへの謝礼金のお受け取りは固くお断りしております。一方で当法人への寄付金については、理事長総務室を窓口にお受け入れをさせて頂いております。当法人のハートある医療提供への取り組みにご賛同ご支援いただけましたら幸いです。

社会医療法人ささき会 藍の都脳神経外科病院 院長

お問い合わせ先 理事長総務室 06-6965-1805(直通)

〈診療のご案内〉

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00 (受付 8:45~11:30)	○	○	○	○	○	○	△
14:00~17:00 (受付 13:30~16:30)	○	○	○	○	○	○	△

■診療日：月～土曜日(土は午前中診療)

■休診日：日曜・祝日・年末年始(12/30~1/3)

◎救急外来は24時間診療です。※診療科により異なる場合があります。

〈面会のご案内〉 平日 14:00~20:00 / 土日祝 11:00~20:00

ICU・SCU 14:00~15:00と 19:00~20:00



社会医療法人 ささき会

藍の都脳神経外科病院

AINOMIYAKO NEUROSURGERY HOSPITAL

大阪市鶴見区放出東2丁目21番16号

Tel.06-6965-1800 FAX.06-6965-1600

URL: <http://www.ainomiyako.net>



*JR放出駅北口より徒歩5分